

### 第3回スポーツ歯科医学会学会認定医研修会

日時：2007年1月21日（日）

場所：国立スポーツ科学センター（JISS）

10：00 - 10：10 開会挨拶

10：10 - 11：15 講演

「女性スポーツ論」

山田ゆかり スポーツライター、早稲田大学スポーツ科学学術院非常勤講師。

11：15 - 11：25 コーヒーブレイク

11：25 - 12：30 講演

「より良いマウスガードを提供するために：マウスガードの設計、デザインに関する科学的な根拠を考える」

前田芳信 大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部

12：30 - 13：45 昼食・休憩

13：45 - 14：50 講演

「肥満症に対する効果的な運動とは」

坂本静男 早稲田大学スポーツ科学学術院

14：50 - 15：00 閉会挨拶

15：00 - 15：30 受講修了書授与

15：30 - オプション：JISS 施設見学ツアー

## 「女性スポーツ論」

山田ゆかり スポーツライター、早稲田大学スポーツ科学学術院非常勤講師。

- 1 「女性スポーツ論」とは = 性差・環境・課題を理解する
- 2 メディア的視点 = スポーツ界のジェンダー意識
- 3 リスクマネジメント = 女性アスリートとの向き合い方
- 4 質疑応答

## プロフィール

スポーツライター、早稲田大学スポーツ科学学術院非常勤講師。

1994年～1997年、アメリカ・インディアナ州立ボール大学およびジョージア州立大学訪問  
研究員。

スポーツを科学的な視点から考える。スポーツと女性、スポーツと子どもをテーマに取材・  
執筆。

おもな著書「女性のからだとスポーツ」(大月書店)

「77の謎を解く」(朝日ソノラマ)

「女は女が強くする」(聞き書き・草思社)

スポーツ「スポーツヒーローと性犯罪」(訳書・大修館書店)など。

現在、飛騨市健康増進体力向上モデル事業「山っこ倶楽部」の総合世話人として受託中。

「より良いマウスガードを提供するために：マウスガードの設計、デザインに関する科学的な根拠を考える」

前田芳信 大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部

スポーツ歯科医学は決して「マウスガード」のみを対象としているのではなく幅広い領域に関わっています。とはいっても「マウスガード」が重要な役割を果たしていることには変わりはありませんし、学会の認定医が提供されるマウスガードにはそれなりの違いが求められることになるでしょう。マウスガードのような単純なサーモフォーミングによるオーラルアプラインスであるからこそ大きな差が生じることとなります。その結果ははっきりと「使える」「使えない」に分かれることとなります。今回はこれまでに明らかにされてきていることをもとに、最善のマウスガードを提供する方法について考えてみたいと思います。

#### 略歴

まえだ よしのぶ

氏名 前田 芳信 生年月日 昭和26年11月25日

現職 大阪大学 教授 大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部

昭和52年 大阪大学歯学部卒業

昭和56年 同 大学院歯学研究科修了

昭和56年 同 助手

昭和59年 同 講師（大阪大学歯学部歯科補綴学第二講座）

昭和61年12月より

昭和63年11月まで 文部省在外研究員

Visiting Assistant Professor

(The University of British Columbia, Canada)

平成4年12月 同 助教授

平成9年2月 文部省在外研究員

(University of Geneva, Switzerland)

平成9年7月 大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部 教授

平成18年4月から 大阪大学歯学部附属技工士学校長 併任

#### 所属学会

International Association for Dental Research

International College of Prosthodontists (理事)

American Academy of Periodontology

Academy of Osseointegration

European Association for Osseointegration

日本補綴歯科学会（評議員、関西支部副支部長、指導医、認定医）

日本口腔インプラント学会（理事：近畿北陸支部長）

## 「肥満症に対する効果的な運動とは」

早稲田大学スポーツ科学学術院 坂本静男

現在、生活習慣病（あるいはメタボリック・シンドローム）がかなり注目され、問題視されている。その生活習慣病の中で肥満症特に内臓脂肪型肥満症は、それ自身生活習慣病であり、他の生活習慣病の誘因ないしは原因になるとも考えられている。さらに生活習慣病のすべてが動脈硬化促進作用を持っていると考えられており、いずれは虚血性心疾患や脳血管障害を起こすことにつながると考えられている。それゆえ現在、肥満症対策は最も重要なものと考えられており、積極的な対応が必要と考えられている。その対応策の柱をなすものが、運動と食事である。そのうちで効果的な運動内容に関して、自験例を含めた研究の動向を述べることにする。

### 学 歴

昭和 41 年 4 月 東京都立戸山高校入学  
昭和 44 年 3 月 東京都立戸山高校卒業  
昭和 45 年 4 月 弘前大学医学部入学  
昭和 51 年 3 月 弘前大学医学部卒業  
昭和 62 年 5 月 聖マリアンナ医科大学内科学講座 2 研究生  
平成 3 年 4 月 聖マリアンナ医科大学内科学講座 2 研究員  
平成 6 年 3 月 聖マリアンナ医科大学内科学講座 2 研究員終了

### 職 歴

昭和 51 年 5 月 関東逓信病院健康管理科レジデント  
昭和 55 年 4 月 長野逓信病院内科兼健康管理科医師  
昭和 57 年 5 月 関東逓信病院神経内科兼健康管理科医師  
昭和 58 年 4 月 関東逓信病院循環器内科兼健康管理科医師  
昭和 61 年 4 月 国際武道大学体育学部講師  
平成 1 年 4 月 国際武道大学体育学部助教授  
平成 3 年 4 月 国際武道大学体育学部教授  
平成 6 年 4 月 順天堂大学浦安病院内科（健康・スポーツ診療）講師  
平成 9 年 4 月 順天堂大学浦安病院健康・スポーツ診療科講師  
平成 15 年 4 月 早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科教授  
平成 15 年 5 月 順天堂大学客員教授兼務  
平成 16 年 6 月 東京女子医科大学東医療センター内科客員教授兼務  
平成 16 年 10 月 早稲田大学スポーツ科学学術院教授

現在に至る

資 格・免 許

昭和 51 年 6 月 医師免許（第 231881 号）

昭和 59 年 8 月 日本体育協会認定スポーツドクター（第 62 号）

平成 3 年 3 月 聖マリアンナ医科大学医学博士（乙第 185 号）